

たった1枚の取引で、あなたの資産を年間3倍強(単利)に!?

値動きが連動する**日経 225**と**TOPIX**

この価格差を狙う「**225 リアル・アービトラージ**」

滑・ら・な・い「**サヤ取り手法**」で

月利**14%**ずつ抜き去っていく

アービトラージシステムを公開中

遂にヘッジファンドの投資手法を個人投資家の手中に...



株式会社ルートウェイ

伊藤 義真

裁量トレードをすれば、誰でも不安や迷いを感じて、「儲けたい」と「損したくない」との心の中の駆け引きを感じるでしょう。

私は、相場の世界での経験が長い程、トレードでの苦しみや悲しみから決して離脱できないという事実を何度も目の当たりにします。

だからこそ、「個人投資家にとって邪魔でしかない相場心理を完全に排除して利益を上げる唯一の手段がシステムトレード」だと確信しているのです。

絶対的収益を目指すヘッジファンドが常套手段とするアービトラージ手法を個人投資家でも利用可能となるように完全移植して現実化したシステムの第1弾が、「225 リアル・アービトラ

ージ」です。

あなたの手へヘッジファンドと同等の頭脳を手にして、平均月利 14% を超える成果をぜひ受け取ってください。

伊藤です。

開発にかなりの時間が掛かったのですが、非常に満足いくトレードシステムが完成しましたので、ここに報告いたします。

今、私は「最高です。」と何度でも叫びたい心境なのです。

こんな素晴らしいシステムを開発して下さるなんて・・・

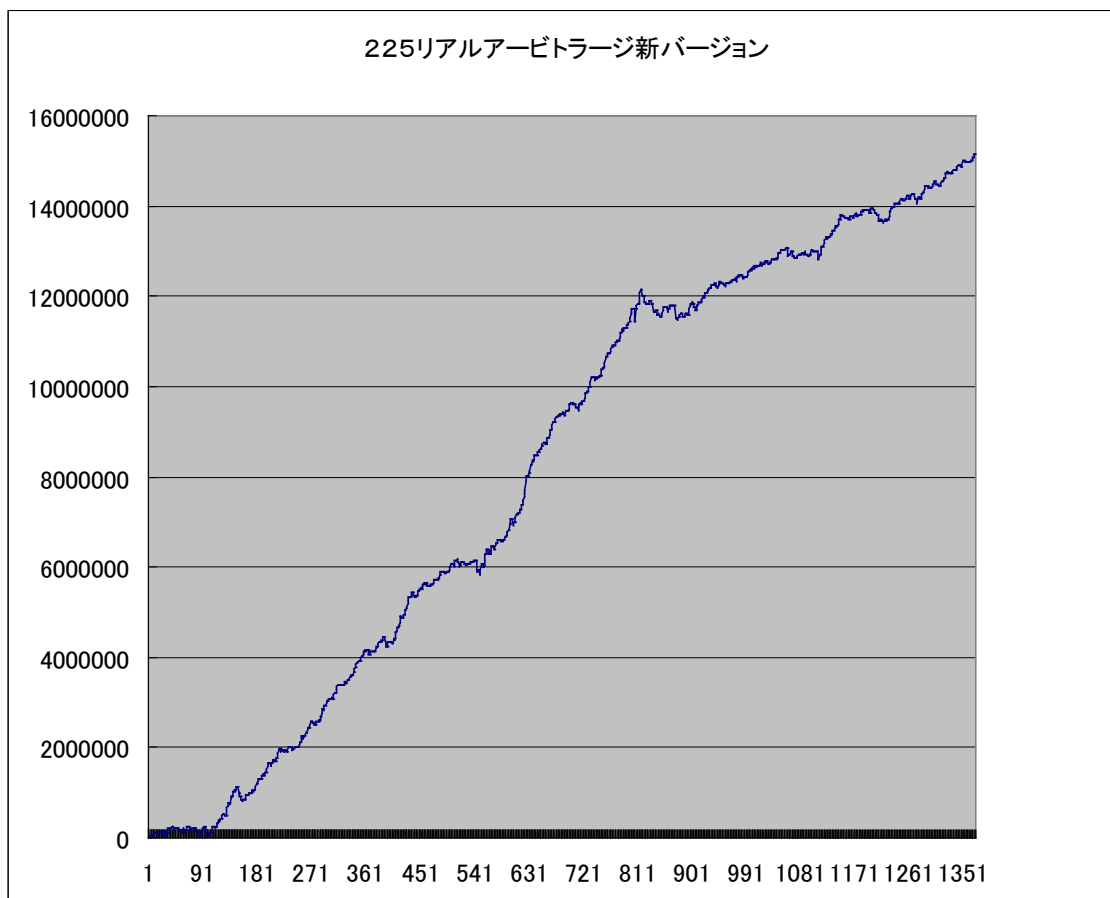
プログラマーの青島氏には、何と云っていいのかわからないくらい感謝しています。

「本当に、ありがとうございます。」

私が青島氏に依頼して開発したこの「225 リアル・アービトラージ」は、日経 225 と TOPIX とのサヤ取りをするトレードシステムになります。

大証が、「J-GATE」という高速化した新取引システムへと変更され、売買ルールの変更が行われましたので、それに伴って「225 リアル・アービトラージ」もブラッシュアップさせることになりました。

それでは、資産増加曲線をご覧ください。



このグラフは、2005年7月7日から2011年4月25日までのおおよそ6年弱の成績になります。

上記6年弱の詳細

総利益	15,883,000 円
手数料込み総利益	14,691,544 円
取引回数	788 回
総手数料	1,191,456 円

このデータはラージ一枚での結果になります。

グラフを見ますと、1216万円から1156.5万円まで59.5万円ほど凹んでいるのが気になります。

この時期は、総金額に対して4.8%のドロウダウンとなっており、ドロウダウンを完全に回復するまでに、約3ヶ月の期間が掛かっています。

日経 225 の運用では、数回ほど連続で負けたとすれば、10 万円や 20 万円と資金の凹みを起こすことは日常的によくあることです。

仮に、300 万円を超えてから 60 万円の損失を出したケースであれば、20%程度の凹みで済んだこととなります。

もしかすると、アービトラージなのに直線の資産増加曲線を描かないことを疑問に思われたり、4.8% というドロウダウンを発生させることに納得できなかったりするかもしれません。

これは、建玉をオーバーナイトして保有することがあり、大相場となった時に局所的にサヤ幅が拡大することがあるからであり、消して不自然な現象ではありません。

しかし、サヤは必ず締まります。

永久に上昇し続けたり、逆に永久に下降し続けたりする相場なんてありえません。

同様に、サヤ幅についても、拡大と縮小を繰り返しながら変動するものなので、サヤ幅が拡大し続けることもありえないのです。

長期の運用をする前提であれば、**年利:168%、月利:14%**という成績は、日経 225 を本格運用されている方でしたら、非常に優秀との評価をいただけるものだと確信しております。

**勝率が、73% 以上で、
プロフィットファクターも、2 を超えている**

まず、勝率です。

同値決済の場合、損益はプラス、マイナスゼロとなるので引き分けとも言えますが、手数料分の損失が発生していて負けトレードとも言えるので、負けトレードとして換算して勝率を計算することとします。

それでは、勝率を表にまとめましたので、ご覧下さい。

6年弱の勝率

総トレード数	788回
勝ちトレード数	577回
勝率	73.2%

総トレード数が 788 回となり、勝ちトレード数が 577 回となります。

勝率は、73.2% です。

サヤ幅が拡大している場合には建玉をホールドして保有し続けることにより、負けトレードの回数を減らすことに成功しています。

次に、プロフィットファクターについてです。

総利益を総損失で割った数値をプロフィットファクターといいます。

この数値が、

- 1を下回ると、損をするシステム、
- 2を超えると優秀なシステム、
- 3を超えるとカーブフィッティングといわれるように過剰最適化された危険性のあるシステム

というように言われたりします。

単純に大きいから優秀なシステムと評価することはできないわけです。

6年弱の P/F(プロフィットファクター)

手数料なし	2.524
手数料込み	2.409

ここで、手数料込みで換算したプロフィットファクターを注目して下さい。

2.409 と、2 を超えています。

無駄な取引をしないことで、手数料が減ったことが、プロフィットファクターを押し上げる原動力になりました。

ひまわり証券からカブドットコム証券に切り替えることで手数料が軽減され、手数料込みでも、P/F が 2 を超えております。

この数字を見れば、「225 リアル・アービトラージ」が、優秀なパフォーマンスを出すという評価をいただけるものだと確信しております。

それでは、「225 リアル・アービトラージ」の開発にまで至る経緯と、新売買システムの完成までをお話します。

勝率至上主義に陥っていませんか？

私が「日経 225」の配信サービスを提供していることもあってか、メールでの問い合わせも多く、できるだけわかりやすいメール返信を心掛けています。

初心者から、日経 225 での運用経験が 10 年以上という方まで幅広い層の方から、多くの質問をお受けしています。

- ・今まで考えたこともない斬新なトレード・ルールについて意見を求められる。
- ・違った独特のヒネリを加えたシステムの検証結果のご報告をいただく。

といったものです。

私は、システムを一通り検証した上で質問にお答えしています。

今までの経験からいえば、日経 225 のシステムでは勝率が 5 割前後を推移しているものが多いです。

もし、エントリー条件を厳しくして率の高いシステムができあがったとしても、トレード回数が極端に減ってしまって実際の運用に使うには得る利益が少なすぎるといったものが、ほとんどで

す。

たとえ数十万円という高価で販売されている有名なシステムであっても、勝率 90%を超えて期待率の高いものは見たことはありません。

現実問題として、勝率を高めた上で実運用に耐えうるものを開発するのは、まず無理でしょう。

システムトレードの世界では当然なのですが、トレードシステムの性能は、勝率という要素だけで決定されることはありません。

なぜなら、コツコツと利益を重ねても、たった一回の負けで資産が半減してしまうといったリスクがあるからです。

確かに高い勝率に着目して利益を出していくという統計的な優位性を発見できるかもしれませんが。

しかし、高勝率の代償として平均損失が平均利益を大幅に超えてしまうものが、ほとんどではないでしょうか？

たった一度の負けトレードの損失額を大きく超えて、長期的に利益を積み重ね続けるシステムを作ることは、困難を極めます。

やはり、こういった高勝率のシステムは、実際に取引をしてみて儲かったという報告をいただくことも少ないわけです。

それで、今までとは違った別のトレード手法を導入したシステムを開発するために、さまざまなシステムを調べてみることにしたのです。

開発プログラマーの青島氏とは？

このアービトラージシステムの開発に先立って、私はトレードサイクロンの斎藤氏に相談させていただきました。

数年前から懇意にさせていただいており、売買システムの相談をさせて頂いたりすることが度々ありましたので、今回も例に漏れずということになります。

「実は、今、日経 225 のアービトラージのシステムを作るつもりなのですが、周りのプログラマーさんに依頼しても、仕事を受けてもらえず困っています。」

「いい人を御存知でないでしょうか？」

そこで、斎藤氏から、非常に頼りがいのあるプログラマーということで紹介していただいたのが、青島氏です。

初めてお会いしたときは、物静かな好青年という印象を受けました。

彼から伺った話では、日経 225 やFXなどのトレードシステムを製作することが多かったようなのですが、販売分析ソフトの製作、SEO 対策ツール、Web システムの開発などを製作することもあるようです。

すべてのプログラム言語に精通していて、何でもこなすオール・ラウンダーでもあり、私が知っているプログラマーのなかでも、彼の能力は別格です。

普通、プログラマーと言えば頭が固いなどと言われますが、彼はプログラマーらしくなく非常に発想が柔軟です。

「225 リアル・アービトラージ」を完成させるには、プログラマーの青島氏の協力があってこそ、完成できたものです。

ここで、彼に感謝の意を表したいと思います。

ドローダウンが収斂し消える

理論上、必ず負けないアービトラージ手法とは

システムトレードを行なっていく上で、ドローダウンを抑えるという命題は相場心理を安定させるための必ず必要となる前提条件だと考えます。

もし、破綻せずに資産が増加すればドローダウンなど関係ないといった考えをお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、それは狂気の沙汰です。

市場参加者が損をしたくないという感情がウゴメているから価格が乱高下するのです。

もし、そういった普遍的な人間の感情の動きが停止してしまったのなら、時間が止まったかのように価格変動もなくなってしまうでしょう。

このドローダウンとの感情的闘いが、相場で稼ぐための鍵なのです。

しかし、私はドローダウンに耐えるべきだとは言っていません。

ドローダウンを抑えて着実に稼ぐシステムを開発できれば、不安を感じずにシステムに運用を委ねることができるからです。

巨額の資金を運用するヘッジファンドが運用の常套手段としているアービトラージ手法を行うシステムを使えば、不安を和らげることができます。

それでは、アービトラージについて具体例を挙げます。

アービトラージ手法というのは、サヤ取りとか裁定取引とも言われ、同じものの価格の歪みを発見して小さな利ザヤを確実に抜いていき積み重ねる取引手法をいいます。

例えば、海外で安くブランド品を買ってきて、国内で高く売るといった事例をイメージしてみてください。

同じ商品でもその地域、市場によって価格差が出てくることがあるので、こういった価格差を

利用して稼ぐことができるのです。

もちろん、価格差は価格変動の影響をモロに受けて消滅する圧力が働きますので、絶対に稼げるといったものではありません。

一見、絶対に稼げるようにも見える「アービトラージ」ですが、誰もが同じ商売をやりはじめると、海外で安くブランド品を買ってきても、国内で高く売れなくなったりしますし、海外のブランド品が品薄となって安く買えなくなるかもしれません。

このように、市場の価格というのは、市場の原理に従って、徐々に価格が収斂していくのです。

しかし、市場の歪みというのは価格が変動していれば、いつか発生します。

逆に、価格変動が起こるから価格差の歪みである「サヤ」が発生するのです。

こういったサヤ取りは、価格の歪みといっても小さなものなので、一度の取引で得ることのできる利益は少ないです。

しかし、価格の乖離というものは最終的には必ず収束するので、理論上確実に稼ぐことができるのです。

アービトラージのメリットは、価格の急騰や急落などが起こったとしても、価格差の乖離そのものが起こりにくく、リスクが非常に少ないことです。

もちろん、海外ブランド品を輸入している間に、価格が急落することは当然考えられます。

しかし、そのウィーク・ポイントにある工夫を入れることで、こういう事態を回避できるのです。

ペア・トレーディングも、「サヤ取り」です。

ある工夫というのは、株式投資で行われるペア・トレーディングで利用されるリスクヘッジ手法と同じものです。

このペア・トレーディングも、アービトラージの一種ということができます。

これは、サヤが発生して価格差が乖離すれば、必ず収斂が起こるという性質を利用しています。

例えば、円高になれば電力株が上昇するといったように、同一業種の株式は似た値動きをするという習性を利用して、比較的価格の低い銘柄を買って、高い銘柄を空売りしておきます。

そうすれば、業種の景気動向によって株価が乱高下しても、大きな含み損を抱えることはありません。

そして、後はサヤが収斂するのを待って利食いするだけです。

このように、買い建玉と売り建玉とを同時に保有することが、「サヤ取り」をするうえで重要になります。

もちろん、価格が乖離し続けて、ドローダウンが大きくなることもあるのですが、価格の歪みが戻るという必然性を理解していれば、ドローダウンに対して恐怖心を持つほどまでにはならないでしょう。

このように、アービトラージというのは、ヘッジファンドでさえ常用するほどの魅力的な取引手法なのです。

なぜ個人投資家がアービトラージを行わないのか？

とても魅力的なアービトラージという手法なのですが、個人投資家で一般的に行われない理由が、2つあります。

まず、一般的に利ザヤが少ないため運用するための原資が巨額でないと儲けが少なすぎるということです。

逆に、巨額資金を運用できるヘッジファンドだからこそ、理論上リスクが存在しないアービトラージ手法を運用の常套手段として、確実に稼ぐことができます。

もう一つは、複雑な計算をリアルタイムですることによって価格の歪みを監視し続けて、価格差が発生した瞬間にサヤを抜く必要があることです。

これは、生身の人間ができる芸当ではありません。

このように、緻密なトレードシステムを組み込んで運用できる個人投資家でなければ、アービトラージ手法で利ザヤを稼ぐことができなかったのです。

そこで、青島氏のような優秀なプログラマーに懇願して、一般的な個人投資家でも運用できて、私の頭脳に詰まっているアービトラージ手法のアイデアを具体化させたシステムの開発を進めていくことにしたのです。

「225 リアル・アービトラージ」が狙うのは 「日経 225」と「TOPIX」の価格の歪み

「225 リアル・アービトラージ」は、「日経 225」と「TOPIX」とのサヤ取りを行うアービトラージシステムです。

まず、「日経 225」と「TOPIX」について簡単に説明します。

「日経 225」は、225 銘柄の株価を単純に平均した指数なので単純平均株価と呼ばれ、株価の数値が高い値がさ株の動きに強い影響を受けます。

「TOPIX」は、東証一部上場株の終値から時価総額の合計を算出して、基準日の時価総額で割った指数になります。

この 2 つの指数は、ともに東証第一部の上場株から指数を算出しており、強い順相関が認められます。

ですから、「日経 225」と「TOPIX」が似た値動きになることは、容易に想像つくのではないのでしょうか？

「日経 225」と「TOPIX」で割った数字を「NT倍率」という指数は、この 2 つの指数の乖離率を数値化して、「サヤ取り」をするための基準としてよく使われています。

この「NT倍率」を利用したサヤ取りは「NTトレード」と呼ばれ、有名な「サヤ取り」手法です。

値がさ株の影響を強く受ける「日経 225」は先物指数ということもあり、「TOPIX」と比較して値動きの足が早くなります。

相場の上昇下降の値動きからサヤ幅が拡大したことを確認して、高いもの売って安いものを売っておいて、サヤが収まるのを待ってサヤ幅の利益を取っていくことになります。

今回のアービトラージのシステムは、この「NTトレード」を参考にして開発を始めていくことにしました。

年に数回、勝率100%のシステムが 完成しました?? (ハッ?)

まず、今まで私が温めていた「NTトレード」を基礎にした「サヤ取り」システムを、青島氏に伝えて、プログラムを組んでいただきました。

どのようなモノになるのか期待していたのですが・・・

はじめに完成したシステムの勝率は100%なのですが、取引回数が年に数回しかなく年に10%も儲からないものでした。

やはり、勝率至上主義ではいけないようです。

使い物にならない「ゴミ箱入り」システムが完成したのです。

それからというものの、青島氏とのシステム論争をやり合うことになります。

- ・エントリーに適正な乖離幅や逆にエグジットに最適な縮小幅はどの程度の数字になるのか？
- ・移動平均を基準にした2指標の動きから最適な分足チャートはどれなのか？

など、2人で検証を続けていって、

- ・それなりに利益がでてでもトレード回数が少なかったもの
- ・全体的には利益は良くても、ある一定の期間だけ成績が悪くなるもの
- ・トレードが頻繁すぎるもの・・・

色々なアイデアを具体化していって、最終的に「これなら良い」というシステムを作り上げました。

そして、実運用の段階に入り、大きなトラブルが発生することなくシステムは稼働して、トレー

ドを自動的に繰り返してくれました。

しかし、私の期待はまたもや裏切られてしまい、もう1つの「ゴミ箱入り」システムが完成しただけだったのです。

滑って、手数料も取られ、ほとんど儲かりません。 それで、寄り成りシステムにしました。

理論上必ず勝てるアービトラージでも、現実はそんなに甘くありません。

最適なテクニカルの数値を発見して、完璧といえるテクニカル指標の数値で挑んだにもかかわらず、成行きで発注すると1ティック分、滑ってしまいます。

これでは、「サヤ取り」のように微小な利ザヤを積み重ねるようなシステムにとって致命症となってしまいます。

「225」と「TOPIX」のエントリー時に1ティックずつ滑り、エグジット時にも1ティックずつ滑るので、合計すると4ティックも滑ります。

加えて、「225」と「TOPIX」の往復の手数料が掛かるので、「利ザヤ」で得たほとんどの利益を吐き出してしまったのです。

これは、海外ブランド品が安い価格で販売され続けたとしても、関税が高く、運送費や人件費などの費用がかさみ、日本国内での販売価格を下げるできないのと同様です。

そこで、滑る4ティックを節約するために、「寄り成り」のみで取引するシステムにして仕上がったものが、「225 リアル・アービトラージ」です。

「J-GATE」へのシステム移行も無事に完了

おかげさまで、システムの公開後に、大きなドロダウンの発生もなく順調に資産増加をしていました。

しかし、大証が「J-GATE」という新取引システムを導入するというニュースを聞き、「225 リアル・アービトラージ」の成績の低下を懸念しておりました。

立会場時代から続いていた特別気配の制度が廃止されて、注文が失効するというルールへと変更されたため、寄成注文が廃止されました。

それに伴い、寄付きの成り行き注文が無効となってしまう、システムが機能不全となって全然利益を出せなくなるといったことも想定しておりました。

また、取引ルールが変更されて昼休みが廃止されたため、前引け決済を行うことができなくなり、1日に2度ある引け決済の機会が1回となってしまいます。

「225 リアル・アービトラージ」では、大引けで必ず決済を行う仕様となっており、前引け決済で利益確定できなくなれば成績が悪化するだろうと予想していたのです。

そこで、青島氏と長時間の打ち合わせをしたところ、

「オーバーナイトしてはどうでしょうか？」

という案を出されまして、更なる売買ロジックの検証と、「J-GATE」に対応するためにブラッシュアップを行うこととなりました。

日経 225 先物のトレーダーには、オーバーナイトをすれば大きなドロダウンが発生すると考えられています。

そこで、私が発案した当初の「225 リアル・アービトラージ」では、大引けで必ず決済して、オーバーナイトしない仕様にしていました。

「J-GATE」への移行を機に、基本の売買ロジックについて一切の変更を入れずに、オーバーナイトさせてみることにしたのです。

具体的には、昼休みの引け決済を諦める代わりに、大引け決済と寄付き時に決済を行う売買ロジックへと変更しました。

もちろん、旧版の売買ロジックを踏襲して、寄付きで必ず決済注文を出すという仕様でもよかったのですが、ここで、更に工夫を加えました。

それは、寄付き時に建玉をホールドしていて、同方向のシグナル・サインを出している場合には、建玉をホールドして持ち越す仕様にしたことです。

建玉を決済した直後に、同方向の建玉を発注するというように、玉の建て直しをしても結果的に往復の手数料額だけ損をするだけです。

だったら、そのまま建玉を持ち越して、往復の手数料を節約する方が合理的です。

この工夫のおかげで、無駄な取引回数を減らせて成績の向上につながり、昼休みの前引け決済がなくなっても、以前のロジックと遜色ないものとなりました。

現状からは予測できないような事態が起こっても、問題に迅速に対応してシステムのメンテナンスを行える体制を整えておりますので、ご安心ください。

青島氏にインタビューしました。

「225 リアル・アービトラージ」システムの開発に尽力して下さった青島氏からの声を要約しましたので、一度お読み下さいませようお願いいたします。

「225 リアル・アービトラージ」開発段階では、システムを安定稼働させるために、実際に証券

会社に口座開設を行って、稼働状況を監視して、そしてバグが起こればフィックスするという状態がしばらく続いてイライラしてしまい、お恥ずかしいです。

プログラムを組む側の人間からすれば、こういう事はよくあることでして、伊藤さんには何度もフォローを入れていただきました。

ありがとうございます。

優秀なシステムトレーダーが考案したハイ・パフォーマンスを叩き出すトレードシステムがあったとします。

しかし、正確に売買の発注を出して、価格データを正確に取得するといった基幹機能に致命的なバグがあれば、正常に機能しません。

優秀な売買ロジックのみが、自動売買システムの優劣を決定する要素ではありません。

自動売買として機能するためには、価格データをリアルタイムに取得して自動売買ロジックを演算させて、売買シグナルを証券会社へ確実に注文を出す。

このような一連のプロセスを滞りなく消化して、はじめてシステムを安定的に稼働させることができるのです。

ですので、信頼性の高い相場の自動売買システムを使用するために、高額のコストが掛かるというのは、自然の成り行きではないでしょうか？

システム・エンジニアは、売買システムがアップデートするたびにAPIの繋ぎこみを確認しなければなりませんし、自動売買ソフトの信頼性を担保するために、バグ・フィックスなどのメンテナンスを続けなければなりません。

大証が新取引システム「J-GATE」を導入すると聞いておりましたので、売買システムのロジックを再検証も含めて、ブラッシュアップ作業を行いました。

その結果、J-GATE 版「225 リアル・アービトラージ」の売買システムは、よりパフォーマンスの高いものに仕上げることができました。

今後も、「225 リアル・アービトラージ」の開発は続いていきますので、長いお付き合いにある

かと思いますが、よろしくお願いします。

自動売買はすべてを放置すればよいというものではなく、システムのメンテナンスは必要になります。

1つは、システムの安定稼働させるためです。

もう1つは、売買ロジックを随時更新していきブラッシュアップするためです。

これは、継続していかなければならないことです。

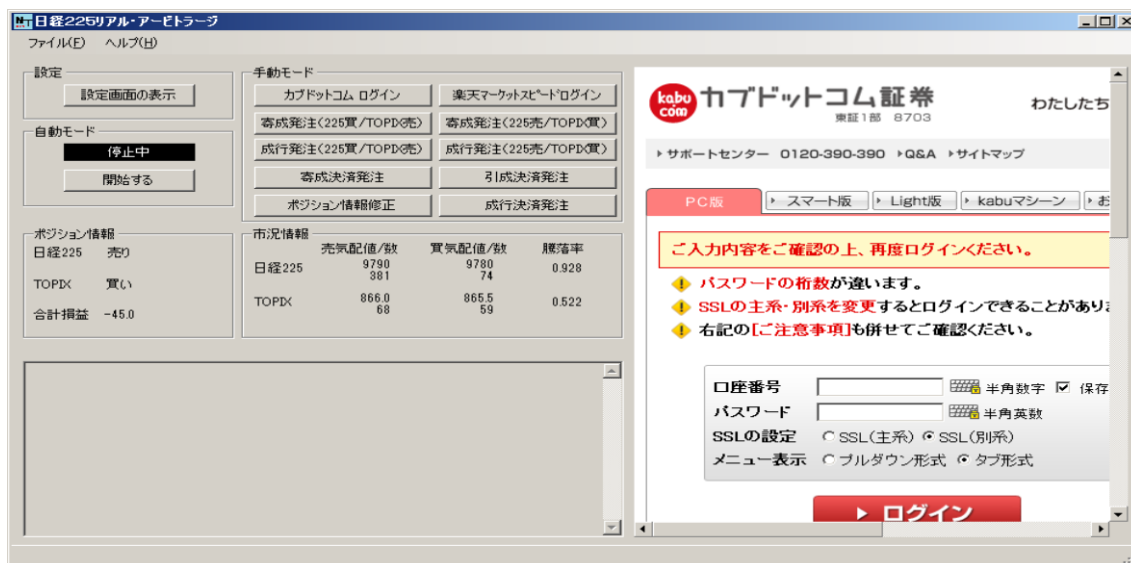
「システムトレードの世界には、安物買いの銭失いをする人が、何て多いんだ？」

などと、2人でよく嘆いていますが、そういった傾向はしばらく続きそうです。

本システムの使用方法について

使用方法を手順に追って説明します。

毎朝9時前に、「日経225リアル・アービトラージ」を実行すると、自動的に「日経225リアル・アービトラージ」のウィンドウが表示されます。



続いて、口座情報を設定します。

口座情報の登録

購入時メールアドレス

カブドットコム証券口座番号

カブドットコム証券の証券口座番号を半角文字で正確に入力してください。間違えると変更できませんのでご注意ください。

登録

「日経 225 リアル・アービトラージ」を起動した後に、上記画面が表示されますので、「メールアドレス」、「カブドットコム証券口座番号」を入力して、「登録」をクリックします。

各種の基本設定を行うため、「設定画面の表示」ボタンをクリックします。

設定画面

カブドットコム証券

口座番号

パスワード

パスワード表示

楽天証券

ログインID

パスワード

パスワード表示

※Market Speedのショートカット設定で、Alt+F10を「総合サマリー」に関連付けておいて下さい。

シグナル設定

騰落率買いポイント

騰落率売りポイント

目標利益

取引時間

前場寄付発注時間

前場引け発注時間

後場引け発注時間

楽天証券再ログイン時間

再ログイン時間1

再ログイン時間2

再ログイン時間3

再ログイン時間4

再ログイン時間5

その他取引設定

ラージ ミニ

取引枚数

設定反映

キャンセル

左側の枠にあります、カブドットコム証券の口座の「パスワード」、楽天証券の「ログイン ID」、「パスワード」を入力して下さい。

右側に移ると取引時間という枠がありますが、「前場寄付発注時間」、「前場引け発注時間」、「後場引け発注時間」を入力する欄があるので、秒単位で発注時間を設定します。

なお、「前場引け発注時間」のテキストボックスが、灰色になって入力できないのは、J-GATE の導入で昼休みがなくなり、前場で引け決済ができないためです。

本来ですと、寄付き価格が分かっているその価格で約定できるように発注するのが理想です。

しかし、寄付きの価格は寄り付いて見ないと分かりませんので、寄り付きの価格を直前の気配から読んで予測し寄り付き直前、大引けの直前に発注することになります。

実際の運用では、寄り付き前や大引け前に大きな価格変動を起こしてサヤが逆転してしまい、売買シグナルが消滅したり逆転したりすることもあります。

それで、理論上のパフォーマンスに近づけるためには、できるだけ寄付きや大引けに近い価格を基準にして売買シグナルを算出した瞬間に発注する必要があるわけです。

ところが今回のJ-GATE導入で、売買ルールが変更され 以前のように寄り付き成り行きで全て約定するという単純な事ではなくなり、発注を投げて時間的に間に合っても成り行き注文が失効する可能性が出てきました。

それだけでなく PC のスペックや、インターネット回線の状態などを含めた運用環境は、各自で違ってくるので、寄付け直前に発注を通すための最適な発注時間も、それぞれ違ってくるわけです。

そこで価格差のある指値注文を出すなどの工夫をしながらどのタイミングで発注を投げるのかも実際にシステムを稼働しながら詰めて行きました。

このような試験運用中にはどうしても想定外のことが起こるのですが、今回も色々と起きました。

そのおかげで考えられる可能性を1つ1つ潰していくことが出来ましたので逆に安定したシステムとなりました。

初期設定では、寄付きでは 8 時 59 分 40 秒、大引けでは 15 時 09 分 40 秒という設定になっております。

ここで気を付けていただきたいことがあります。

それは、「225」と「TOPIX」とでは、大引け時間が 5 分ズれることです。
具体的に言うと、「225」は 15 時 15 分、「TOPIX」は 15 時 10 分が大引け時間となります。

ですので、後場引け発注時間は、「TOPIX」に合わせて 15 時 10 分より前に設定することになります。

ただ、この 5 分のズレで「225」の値が振れることは非常に考えにくいかと思います。

しかし、最後の 5 分間の値動きによって成績を悪くするようでしたら、「225」の大引け時間の 15 時 15 分に合わせた、「225」のみの発注時間設定の項目を、追加していくことも検討していますが、恐らく必要ないでしょう。

勿論、初期設定が、あなたのパソコン環境にとって最適な設定とは限りません。
ぜひ、各自で発注時間の微調整をしていただければと思います。

あとは、取引時間の前にシステムを起動して 「開始する」ボタンをクリックするだけ

設定が終了すれば、後は自動モードという枠の中にある「開始する」ボタンをクリックして、9 時の寄付き時間を待つだけです。

以下の取引の流れは、おおよそ以下の通りです。

1) 9時前には、売買サインを計算してエントリーか見送りを判断してエントリーサインが出れば自動で発注します。

エントリーサインが出ない場合は見送ります。見送るのは週に1度くらいの頻度です

2) 大引け前になると、ホールド(オーバーナイト)か決済かを判断して決済のサインが出れば自動で決済します。

大引けは利益が出ている場合のみ、決済して利益確定を行います。

もし、利益確定できなかった場合には、建玉をホールドして翌日に持ち越します。

3) 翌日9時前に、売買シグナルの判断を行い、適切な注文を発注します。

前日の引けで建玉をホールドしている場合、シグナルによって、持ち越し、ドテン、決済のうちから適切な注文を発注することになります。

A) エントリー・シグナルと同一方向の建玉をホールドしている場合

225を買い建玉を保有していて、TOPIXを売り建玉を保有していて、寄付きの売買シグナルが「225 買い、TOPIX 売り」の場合 … **建ち玉をそのまま持ち越します。**

寄りで決済をしてから、寄付き注文を行うのは往復の手数料が無駄となるからです。

逆に、225を売り建玉を保有していて、TOPIXを買い建玉を保有していて、寄付きの売買シグナルが「225 売り、TOPIX 買い」の場合も、同様です。

B) エントリー・シグナルと逆方向の建玉をホールドしている場合

225を買い建玉、TOPIXを売り建玉を保有していて、寄付きの売買シグナルが「225 売り、TOPIX 買い」の場合 … **建ち玉を寄り引けで決済し、「225 売り、TOPIX 買い」の新規注文を発注します。**

こういう取引のことを、「ドテンする」と言ったりします。

逆に、225 を売り建玉、TOPIX を買い建玉を保有していて、寄付きの売買シグナルが「225 買い、TOPIX 売り」の場合 … 建ち玉を寄り引けで決済し、「225 買い、TOPIX 売り」の新規注文を発注します。

C)見送りサインの場合

保有している建玉を寄り引けで決済します。… 建玉を決済し、ノーポジションとなります。

ただし、ここでもう一度繰り返しますが注意していただきたいのは、引成注文は存続されましたが、寄成注文が廃止されたため、寄付きでの成り行き注文が無効となるリスクがあることです。

その対策として、寄付けで決済するときには、指値で発注するようにしております。

更に、自動だけでは不安という方のために、「手動モード」もご用意しております。

手動モードという枠の中にある「寄成発注(225 買/TOPIX 売)」ボタンと、「寄成発注(225 売/TOPIX 買)」ボタンと、加えて「成行発注(225 買/TOPIX 売)」ボタンと、「成行発注(225 売/TOPIX 買)」ボタンとがあります。

「寄成決済発注」ボタンは、寄付き時に手動で建玉を決済する場合に使用します。

「引成決済発注」ボタンは、大引け時に手動で建玉を決済する場合に使用します。

「成行決済発注」ボタンは、成行で建玉を決済する場合に使用します。

取引履歴は、証券会社の約定メールで確認することができますし、手動モードにある「カブドットコム証券ログイン」ボタンで、口座にログインして保有ポジションを確認することもできます。

イブニングセッションでのトレードは行いませんので、パソコンの電源をお切りください。

もし、ポジションを強制で大引け時に決済したいのであれば、手動モードにある「引成決済発注」ボタンを使用して、大引け決済の発注を入れておくことも可能です。

また、寄り付き時に決済したいのであれば、手動モードにある「寄成決済発注」ボタンを使用して、寄りでの決済の発注を入れておくことも可能です。

寄成り注文は廃止され、実際には指値注文をするので、「寄成り」という言い方は適切ではありません。

しかし、制度が変更された直後ということもあり、「寄成り」という表記がわかりやすいかと思っ
て、敢えて変更せずにそのままにしております。

パソコンの電源を切る場合は、翌日の寄り付きの売買シグナルは前日の 15 時の現物株式引
け時間の価格を参考にして算出しますので、少なくとも 15 時までパソコンを起動させておく必
要があります。
ご注意ください。

投資資金として、15 万円を用意して下さい。

それでは、「225 リアル・アービトラージ」の運用を開始するために必要になる投資資金につい
てです。

必要証拠金と最大ドローダウンを計算した上で、予期しないドローダウンをくろうことも想定し
ておいて、余裕のある運用資金から始めれば、安心して見ていられるでしょう。

個人的な意見では、225 先物ラージ 1 枚、TOPIX 先物ラージ 1 枚を同時に建てて「225 リアル・
アービトラージ」を運用するために、200 万円を用意していただくのが理想的であると考えてお
ります。

しかし、過去 5 年半の最大ドローダウンを考慮しますと、初期資金として **150 万円**程ご用意いただければ、運用を開始できます。

しかし、225 先物ラージ 1 枚、TOPIX先物ラージ 1 枚を同時に建てて運用する場合に限っての話です。

もし、225 先物ミニ 1 枚、TOPIX先物ミニ 1 枚ということであれば、単純に計算して **12 万円**で運用を開始できますが、現実的に考えると、**15 万円**程度あればミニ 1 枚から安心して取引を始めることができます。

ミニ 10 枚まで対応しているので、資金の増加に従い取引枚数を増やして、複利で運用して増やしていくことになります。

資金管理さえしっかりやれば、ほとんどドローダウンらしいドローダウンを発生させずに 1 年間で 20 倍、30 倍の資産増を見込めるでしょう。

しかし、今回公開するバージョンは、ミニ 10 枚までの取引とラージ1枚のみの取引に制限しています。

「ドローダウンをヘッジしたシステムを複利で増やしていき、億のレベル程度に達する醍醐味を味わってもらいたい。」

といった気持ちはありますが、いくら寄り付けシステムだとしても、建玉が増えてマーケットへの影響が出る可能性を否定することはできません。

あらかじめマーケットインパクトを精査していき、段階的に枚数を増やしたバージョンを公開していく予定でいますので、ご了承いただきたく存じます。

しかし、枚数を増やしたバージョンは、ラージ1枚バージョンを使用されて本システムの実力を理解した方のみにお譲りします。

これは、「225 リアル・アービトラージ」を利用されている者の先行者特権となります。

実は、「225 リアル・アービトラージ」はシリーズになっていて、今回公開しているシステムは「バージョン1」になります。

他にも、数種のアービトラージシステムの構想があり、近々リリース予定にしている「バージョン2」は、「225 先物の限月間アービトラージ」システムになります。

このような「ルートウェイ伊藤」の頭脳がシステム化された最新のアービトラージシステム情報が最も早く届けられるのは、間違いなく「225 リアル・アービトラージ」ユーザーだということです。

動作環境

「225 リアル・アービトラージ」の動作環境は以下の通りです。

- ・Windows XP、Vista、7
- ※Mac では動きません
- ・デュアルコア以上の CPU

PCスピードが重要なので、デュアルコア以上のCPUを搭載したパソコンを用意して下さい。
なお、サヤを瞬時に判断して取引をするため、高速ブロードバンド回線が必要です。
特に注意してもらいたいのは、楽天証券の口座開設と、カブドットコム証券の口座開設が必要になることです。

楽天証券の「マーケットスピード RSS」でデータを取得して、カブドットコム証券でトレードします。

価格は？

今回の先行公開価格は、**半年間(口座申請受付後)の使用権が 94,500 円(税込)**になります。
当初は、月額 50,000 円程のシステム使用料を考えていたのですが、ラージ 1 枚のみという制

限を付けたこともあるので、安価な設定にしました。

先行公開ということもあり、最低でも半年間は「225 リアル・アービトラージ」を使い倒して頂きたいという一方的な考えもあって、青島氏が嫌がるのを承知で決定した価格となります。

青島氏へ支払うシステムのメンテナンス・フィーを考慮すれば、費用さえもペイしない破格でのオファーです。

途中解約による、使用权の買戻しには一切応じませんし、返金なども一切対応いたしません。

もちろん、使用权の譲渡も一切認めません。

日経 225 やTOPIXで本格的な投資をする方が、返金してもらいたいなどと言うはずがないと信じていますが、念のため強調しておきます。

ハイ・レベルな「アービトラージシステム」をこの価格で提供していることは、他社の投資顧問会社などには、一切口外しないで下さい。

絶対的収益を上げるヘッジファンドの投資手法 取引の優位性が理解できる方のみ、お譲りします。

プログラマー青島氏の尽力で、絶対的収益を目指すヘッジファンドの投資手法のごく一部を、個人投資家に提供することができたという想いで、私は達成感に浸っています。

PCの演算能力の向上や金融デリバティブの発達で、实体经济を無視した相場が形成されていると批判されることもあります。

しかし、機関投資家がやっている投資手法は、個人投資家などに広く門徒が開かれるべきだと思います。

もちろん、これからもアービトラージシステムの売買ロジックの追加も含めて、「225 リアル・アービトラージ」の開発を継続していきます。

ぜひ、**先着 10 名様**にしかお渡しできない使用权を手にして、「ヘッジファンド」の投資がどういったものか体感して下さい。

「日経 225 リアル・アービトラージ」

半年間(口座申請受付後)の使用权

特別価格 94,500円(税込)

▶ お申込みはコチラ

今月は、**先着 10 名様**で受付を終了いたします。

[特定商取引法に関する表示](#)

追伸

もし、あなたが潤沢な投資資金があるにもかかわらず、システムの使用を躊躇するのなら、投資を止めた方が身のためです。

私の粉骨碎身のサポートでもってしても、助けようがないからです。

また、投資資金が不足している方は決して申し込まないで下さい。

十分な投資資金を用意しておくことが可能だった人のみが、投資家として成熟できる資質が備わっていると評価されて然るべきではないでしょうか？

もしあなたが、投資で資産を増加させるために、15万円という資金を用意できるのであれば、「225 リアル・アービトラージ」で利益を積み重ねることができると確信しております。

そして、後はあなたの決断次第です。

安定して儲けることのできる「サヤ」が発生したチャンスをみすみす見過ごしてしまうのは、時間を無駄に浪費していることと変わりはありません。

機会損失を続けることも時間の浪費に違いはないのです。

「日経 225 リアル・アービトラージ」

半年間(口座申請受付後)の使用権

特別価格 94,500円(税込)

▶ お申込みはコチラ

今月は、**先着 10 名様**で受付を終了いたします。

[特定商取引法に関する表示](#)

追伸 2

東日本大震災に見舞われてから、

「いかに放射能に汚染されずに生き延びていくかが重要で、投資どころではない。」

というような世相が覆っているようです。

その意見は、至極真っ当なものです。

いくら情報プライバシー権を叫ぼうが、フランス革命以後も「絵に描いた餅」であることは変わりありません。

真実は明らかにされないのが常です。

しかし、たとえ先行きが不透明であっても、前に進んで未来を創る義務があるように感じるのは、

落ち込んでいる暇など、ないはずですよ。

震災直後の異常な相場であっても、「225 リアル・アービトラージ」は、手堅く利益を出してまいりました。

そして、これからも手堅く勝ってくれるでしょう。

本当に必要とされているのは、どんなに大きな事件が起こったとしても安定して勝つシステムなんだと痛感している次第です。

今後は、トレードシステムの自然淘汰が起こるかもしれませんが、「225 リアル・アービトラージ」は、しぶとく生き残ると確信しております。

「日経 225 リアル・アービトラージ」

半年間(口座申請受付後)の使用権

特別価格 94,500円(税込)

▶ お申込みはコチラ

今月は、**先着 10 名様**で受付を終了いたします。

[特定商取引法に関する表示](#)



スロ集団の技術力とノウハウを集結

トレードシステム 開発プロジェクト